



安来市いちご就農BOOK

本気で、いちごやろう。

「本気で、いちご農家やりたい人」  
ご連絡ください。



## いちご農家、という生き方。

いちごづくりに嘘はつけない。

つくり手の信念や考え方が、一粒の実にすべてあらわれる。

だからこそ、農家一人ひとりのまなざしに

困難や失敗を受け入れ、前に進む“覚悟”が宿っている。

土地に根ざし、時代をとらえ、

ひたむきにいちごの一生に向き合っていく。

その姿に自分の未来が重なるなら

あなたの生きていく場所は、ここにあるのかもしれない。

さあ、本気で、いちごやろう。



## なかうみプロジェクト

NAKAUMI PROJECT

いちごで、安来を元気にしたい。

島根県安来市は、県内有数のいちご産地として知られています。しかし近年、いちご農家の高齢化に伴う栽培面積の減少から年間の出荷量・販売額は徐々に低下しつつあります。

そのような状況の中、市内でも特にいちご栽培が盛んな集落の一つである下坂田地区では、同地区をいちご産地として再生させることで安来市のいちご栽培のこれからを担う役割を果たしたいと、若手を中心としたいちご農家8名が中心となって2017年2月に「なかうみプロジェクト」を立ち上げました。

同プロジェクトの大きな取り組みとして、いちご栽培での新規就農を志す方がスムーズに就農研修から独立就農へと移行できるよう、住宅地と農地、研修において栽培技術を学ぶことのできる師匠、そして集落ぐるみの受け入れ体制を整えました。(下坂田いちご就農・定住パッケージ)

また、いちご農家同士のネットワーク構築や栽培・

販売にあたっての連携を図ろうと同プロジェクトの新規就農者が集まり勉強会を開催しているほか、web上のいちごの栽培状況と反省の共有、ハウスのビニール張り替えの共同作業、ネット通販による都市部への直接販売など、様々な取り組みを進めています。



「なかうみプロジェクト」という名前には、下坂田地区のみならず、市の北部に面する中海沿岸に広がるいちご産地を活性化したいという想いが込められています。



## 島根の安来の下坂田

下坂田地区は安来市の平野部に位置する世帯数24戸、人口79人(2017年10月時点)の集落です。市の中心部にほど近く、周辺の松江市、米子市といった市街地までは自動車で30分圏内といったアクセスの良さが魅力です。また、同地区にはいちごのほかぶどう、米、花きなどの栽培農家が集中しており、市内でも有数の農業が盛んな地域となっています。



## 下坂田の歴史

数百年前、下坂田地区は市内を流れる飯梨(いいなし)川の河道でした。山陰地方は古来より「たら製鉄」で栄えた地域であり、これに使用する砂鉄を川の真砂から採取する「かんな流し」が飯梨川上流で盛んに行われたことで、長い年月をかけて現在の地形ができあがりました。そのため、同地区には肥沃な砂質土壤が堆積しており、古くから農業が盛んに営まれてきました。

同地区的いちご栽培の歴史は昭和20年代までさかのぼります。はじめは露地栽培からスタートしましたが、その後様々な栽培品種の導入・改良、ハウス栽培といった技術の発展が進み、現在では年間出荷量約240トン、県内生産第1位(県内生産の約7割)を誇る安来市の“顔”といえる農産物となっています。



自分で選んだ道だから  
すべての経験が  
糧になる。

認定新規就農者

いちご農家歴 2年

Uターン（島根県出雲市）

石橋 賢一郎さん

ISHIBASHI KENICHIRO

PROFILE

安来市出身。大学卒業後、県内の農業法人に2年8ヶ月勤務。農家になるという幼い頃からの夢を叶えるべく退職し、Uターン。3年間の研修を経て、2016年9月より独立就農。

栽培方法:土耕栽培 品種:紅ほっぺ



いつもそばで支えてくれる家族に感謝しています。



### 石橋さんのいちごづくり

初めの1作目では多くの失敗を経験しました。それを受け止め、しっかりと対応してきた結果として、今作では出荷目標を達成することができました。県の農業普及員や周りの農家仲間に相談しながら、「最終的に責任を引き受けるのは自分」という意識を持って日々いちご栽培に向き合っています。

先輩からの本気メッセージ

未来を見据え、  
ともに歩む仲間として。

高見 謙一さん いちご農家歴 4年

TAKAMI KENICHI

PROFILE

安来市出身。静岡県の会社に勤務後、実家の農家を継ぐ形で2014年にUターン。2017年に運行を開始した豪華寝台列車「瑞風」のランチにいちごが利用されるなど、その質の高さは外部からも高く評価されている。



栽培方法:土耕栽培 品種:紅ほっぺ、章姫

必要となります。いちごの栽培から加工、販売に至るまで、自ら工夫して変えていく大きな可能性があり、プロジェクトでは今後、共同での販路開拓や売り方の検討を進めていきたいと考えています。「安来いちご」のブランドを守り、将来に継いでいくため、私たちと一緒に挑戦していきましょう。



# 安来のいちご農家が教える

# 15のこと

## 安来でつくられるいちごの品種

### 1 章姫

濃厚な甘みはまさに“蜜”



やや細長い形で、果肉がやわらかくジューシーな大粒いちごです。甘みが強く酸味が少ない食味が最大の特徴で、特に冬場、しっかりと糖度を蓄えた章姫の味は格別。お年寄りや子どもに人気のある品種です。

### 2 紅ほっぺ

絶妙な酸味に、思わずもう一粒



円錐形の大粒いちごで、果実は果肉の中まで赤く色づきます。酸味と甘みのバランスの良い食味で、ジャムやケーキなどにも相性抜群。「ほっぺが落ちる」美味しさで様々な世代に支持されています。

### 3 かおり野

農家待望の  
ニューフェイス



やや扁平な大粒いちごで、上品な香りと酸味が少なくさっぱりとした甘さが特徴です。いちご農家の悩みのタネであった「炭そ病」に強いという栽培のしやすが魅力。2010年に品種登録された新品種です。

### 4 「安来いちご」の 美味しい秘密

最もいちごが美味しいのは12月～翌年2月にかけての3ヶ月間。冬場の日照時間が短い山陰地方だからこそ、いちごがゆっくりと時間をかけて色づくことで甘みを蓄えています。

### 5 美味しいいちごの 見分け方

ヘタが反っているものは実が熟しているサイン。また、大粒のいちごは熟すまでに時間がかかるので、小粒よりも甘いいちごになります。



### 6 いちごと水分の関係

いちごは水分を貯めやすく、味が水っぽくなりやすい作物。水やりを控えることで、濃厚な味に仕上げることが栽培の基本です。下坂田地区は水はけの良い砂地の土であるため、いちご栽培には最適な環境です。



### 7 農家が教える いちごの美味しい食べ方

何といっても、採れたてを生で食べるのが一番! みずみずしくジューシーいちごのさわやかさが口いっぱいに広がります。

## いちごの栽培方法

基本的にはビニールハウスで栽培し、ハウス内の温度や水分量などの環境条件を管理することでいちごの生育をコントロールし、長期間にわたっての収穫と品質の保持が可能となります。

### 8 土耕栽培

苗を地面に直接植える昔ながらの栽培方式。いちごにかかる生育ストレスが少なく、土中の微生物の働きによる生育促進が期待できることが特徴です。一方で作業時には長時間腰をかがめなければならぬなど、作業者の負担も少なくありません。



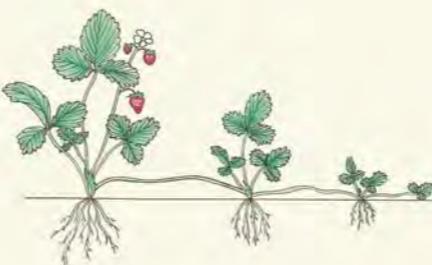
### 9 高設栽培

作業者の腰の高さに栽培ベンチを配置する栽培方式であり、近年全国的に普及しつつあります。栽培管理や収穫がしやすく作業性に優れていますが、栽培設備にかかる初期費用が大きくなることが難点です。



### 10 いちごの苗

いちごの株の根茎と葉のつけ根の間にできる生長点から「ランナー」と呼ばれるツル状のはふく茎が伸び、ランナーの先端が地面にふれることで根がはり、そこに子株が形成されます。1株の親株から発生するランナーは実に50～100本にもなります。



### 11 畑灌設備(畠地灌漑)

下坂田地区周辺の農地には飯梨川を取水地とした農業用水の給水システムが整備されており、これを畑灌設備と呼びます。農地にある給水栓を開ければ、天候に左右されない安定した水を畠地に常に供給できます。



### 13 ミツバチによる受粉

ミツバチはいちご農家の大切なパートナー。開花期の10月末頃から出荷が終わる5月末まで、巣箱をハウス内に設置します。ミツバチが花粉を集めるために花から花へとまなく飛び回ることで受粉が行われ、いちごが大きく立派な実へと育つのです。



### 12 いちごの花

10月頃から、白くてかわいらしい花が次々と咲きはじめます。開花からおよそ30～40日(冬期:50～60日)で収穫の時期を迎えます。



### 14 いちごの出荷時期

ハウス栽培のいちごの出荷は11月後半から翌5月末までのおよそ半年間。特に12月のクリスマスシーズンから需要が高まります。



### 15 環境にやさしい 栽培方法

点滴利用や微生物農薬の活用など環境に負担の少ない農業を実践しています。

新規就農の“不安”が“安心”に変わる4ステップ。

# 本気でいちご農家を目指す人を 安来市は応援します。

STEP 1

まずは、相談しよう！



## 就農相談

農業で生きる決意を固める前に、まず相談。担い手協議会では農業に関する情報提供やアドバイスを行っています。また、各地の就農相談会や農業体験ツアーへの参加もお待ちしています。

STEP 2

師弟制度で  
マンツーマンの実技指導！



## 安来市新規就農研修

島根県知事認定の指導農業士の下で、新規就農に必要な農業技術や経営管理を習得するための研修を実施し、就農後も相談役としてサポートします。

- 対象者／研修期間終了後、**安来に定住**し、新規就農が可能な方で、農業に積極的に取り組む意欲のある方
- 研修期間／1年以内
- 研修先／指導農業士農場(農業研修)、関係機関(農業)

[安心の助成制度があります](#)

▶ 決意が固まる！

STEP 3

栽培の実践で  
イメージを明確に！



## 自営就農研修

研修用のハウスを借りて栽培の計画から実際の栽培、収穫、販売までの一連の作業を実践的に研修できます。

- 専門的な栽培や経営技術、知識の習得を目指し、農家や研修施設での研修(農家、JA担い手支援センターなど)
- 農業士への弟子入り・経営研修・販売対策ほか

[安心の助成制度があります](#)

STEP 4

ここから就農スタート！



## 就農計画を作成し、認定就農者へ。

- 営農サポート／農業普及員による技術指導・経営指導、その他情報提供
- 施設整備／国や県の新規就農者を対象とした補助事業
- 新規就農者向けにリースハウスを整備／国、県の補助によりリース料を軽減
- 自己課題解決研修事業 ●青年等就農資金等

[安心の助成制度があります](#)

## 安来市のサポート体制は充実しています！



### 体験ツアーあります！

本格的な研修を受ける前に、自分が本当に農業ができるかどうか、安来で暮らせるかどうか、実際に安来に来て、農業ミニ体験をしてみよう。

[詳しくはP18へ](#)

### 研修中の住まいも安心です！



滞在施設(宿泊施設)を利用できます。  
ワンルーム(52m²・ロフト付・セパレート) 使用料 2万円/月  
(光熱費は実費負担) 無料駐車場完備

滞在費の一部を  
助成します！  
1ヶ月あたり  
12万円

### 集落全体でサポート！



集落内の話し合いにより策定された集落ビジョンにより、UIターン新規就農者の受け入れ体制づくりを進めています。

### 就農後はまとまった農地の確保が可能です！



体制が整った集落では、まとまった農地を確保します。  
団地化した農地で、より効率的な営農が可能です。